

第11回

生命科学交流ミーティング

6月22日(金)

講演

16:00 - 18:00

懇親会*

18:30-

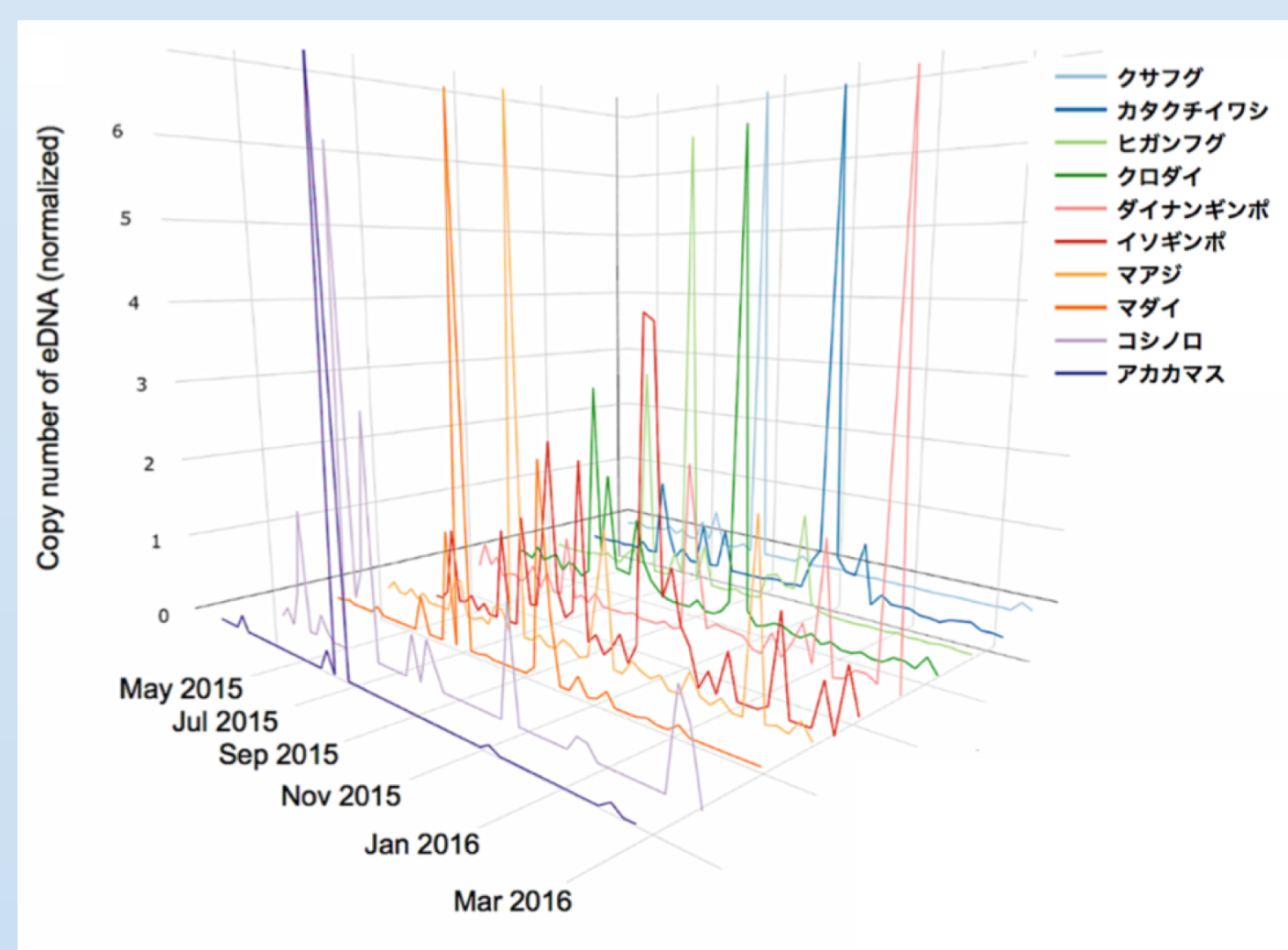
*片平会場. 参加費500円(講演は無料)

【本会場】 片平 : 生命科学研究科 プロジェクト棟1階 講義室B
【ビデオ中継】 青葉山 : 生物棟 大会議室
星稜 : 加齢医学研究科 プロジェクト総合棟 1階 グローバルルーム
浅虫



環境DNA技術と高度生態情報社会の可能性

The eDNA Technology and Advanced Eco-Information Society



近藤倫生 博士 統合生態分野

環境中に含まれる生物由来のDNAを利用した生物調査法、いわゆる「環境DNA技術」が注目を集めるようになった。環境DNA技術の現時点での到達点を解説するとともに、今後、環境DNA技術の進展が生態学のあり方や私たちの生活に及ぼす影響について展望を述べる。



魚類を用いた器官再生研究

Organ regeneration research using fish



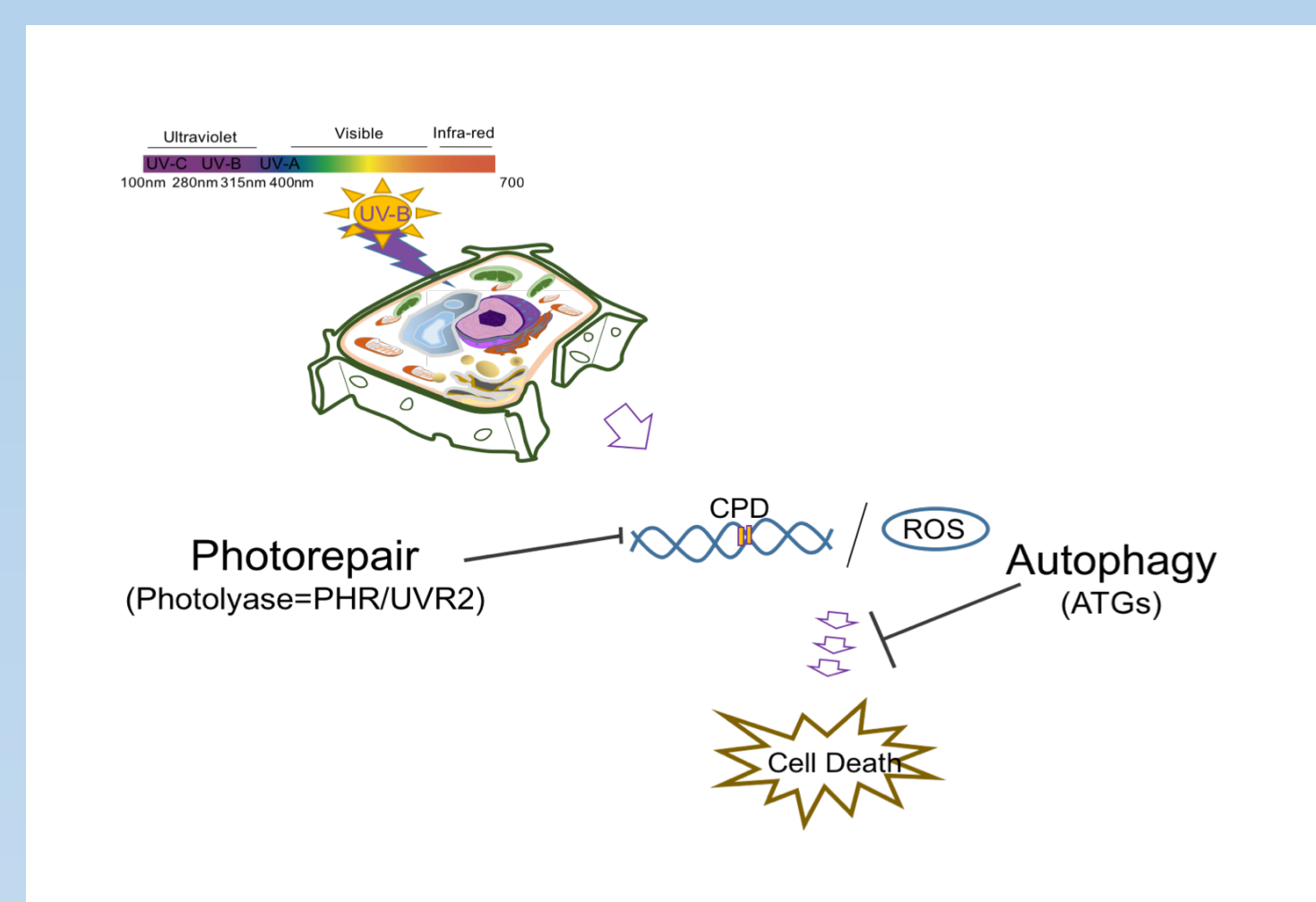
植本俊明 動物発生分野

ヒトを含む哺乳類は、失った体のパーツを再生することはできない。一方、魚類は高い再生能力を持ち、全身の様々なパーツ（脳、脊髄、心臓、ヒレなど）を再生することができる。器官再生研究では、魚類のような”再生できる”動物から再生の仕方を学ぶとともに、哺乳類の再生の実現が目指されてきた。本セミナーでは、これまでの再生研究で得られた知見と演者が取り組んでいるヒレ形態の再生研究について紹介する。



シロイヌナズナにおける紫外線UVBダメージ～UVB誘発DNA損傷とオートファジーの関係～

UVB-induced damage in Arabidopsis: Relationship between DNA damage and autophagy



Dundar Gonul 分子遺伝生理分野

これまでに、植物の紫外線抵抗性には、紫外線UVBによって誘発されるDNA損傷（ピリミジン二量体）を青色光を利用して修復する光回復酵素、さらにはダメージを受けたオルガネラを除去するオートファジーの機能が重要であることを見出してきた。本セミナーでは、シロイヌナズナ変異体を用いて、ピリミジン二量体の蓄積によるDNA damage response(DDR)とオートファジー誘導との関連性について紹介する。



ポスター: 石田 光南 (植物細胞壁分野)
世話人: 加賀 悠樹 (植物細胞壁分野)
(連絡先: yuki.kaga.t7@dc.tohoku.ac.jp)